

定時制・単位制  
DLAによる日本語力の把握  
生徒による教員対象母語教室  
大学・JICA関係団体等との連携

## 滋賀県立

# 大津清陵高等学校馬場分校



大学、JICA 関連団体、多文化共生センター等の地域の諸団体から生徒の母語で対応できる方の協力を得て、生活・学習面の支援が行われています。また、生徒が教員に自身の母語を教える機会を設けたり、自分の国のプレゼンテーション活動を行ったりと、母語・母文化を尊重し、多文化共生を目指した取り組みに力を入れています。

学校名	滋賀県立大津清陵高等学校馬場分校	所在地	滋賀県大津市
課程・制度・学科	定時制・単位制・夜間部・普通科		
特別入学枠	無	措置	—
全校生徒数（人）	127	外国籍生徒数（人）	23
特別枠入学者数（人）	—	日本語指導が必要な生徒数（人）	—

## 生徒の実態・とりまく状況

- ・ 16 歳から 64 歳までの様々な人生経験を持つ生徒が在籍しています。
- ・ 生徒の多くは、学資や生活費を自ら稼ぐため、派遣等でフルタイムの勤務をしています。
- ・ 派遣等の非正規勤務の場合、勤務の都合で突然退学するケースがあります。他方で、年度途中の転入希望もがあり、受入れています。
- ・ 滞日履歴は 1 年半から日本生まれの生徒までと様々で、日本語の力も会話がようやくできる段階（DLA ステージ 2）から、教科内容も支援があれば理解できる力をもつ段階（ステージ 6）まで多様です。

## 受け入れ体制

**指導・支援担当者：**日本語指導担当教諭が 2 名、非常勤講師が 1 名、地域や大学生のボランティア支援者を含め約 10 名で対応しています。

**入学前の実態把握：**外国籍生徒担当者および日本語指導担当者が生徒情報の交換会のために 3 月下旬に中学校訪問を行っています。日本語指導内容や方法、緊急の連絡先や生徒個々の家庭の情報などを聞き、教員間で得た情報を共有しています。

## 学習指導・支援の工夫と特徴

### 日本語指導

- 新入生および転・編入生徒の日本語力の把握方法として DLA を利用して、4月の会議で学校全体に共有しています。  
\*DLAとは、文部科学省が開発した、外国人児童生徒等の日本語の力を、対話を通して測るツールです。詳しくは、文部科学省の Web サイト『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA』を参照のこと [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm)
- 「日本語」(ABCD)では、帯活動としてニュースからトピックを取り上げて学習したり、ボランティアの協力を得て個別学習をしたりしています。
- 教員側は「日本語自己評価シート」を参考にレベルを把握し、聞く・話す・読む・書く力の目標設定をしています。

学校設定科目名	授業内容	担当者
日本語 A・B・C・D (1年2単位、8 単位まで取得可 能)	<b>【1 時間目 17:30~18:00】</b> 最初の 15 分~20 分は帯活動として、NHK のやさしい日 本語ニュースから生徒が興味関心のあるトピックを取り 上げて指導。 <b>【2 時間目 18:30~19:20】</b> ボランティアと個別学習を実施。各生徒が個別に目標を 立てて、漢字・語彙・読解など日本語能力試験の N5~N2 まで取り組む。	日本語指導担当教諭 2 名、 非常勤講師 1 名、 地域や大学生のボランテ ィア約 10 名

### キャリア支援

**生徒の卒業後の進路:**ほとんどの生徒が就職をし、卒業後も在学中の職場(派遣先など)で継続して勤める生徒も少なくありません。大学への進学は、京都外国語(短期)大学の学校推薦型選抜(指定校制)制度で、数年に一人、外国人生徒等が進学しています。その他の大学を受験する生徒は少ないのが現状です。

**進路相談・キャリア教育:**日本人生徒と同じ条件で、進路相談やキャリア教育を実施しています。

**多文化共生支援センター(SHIPS)の協力:**中南米や東南アジアの中学高校から馬場分校へ、転・編入学を希望する生徒についての問い合わせに、卒業証明書類の日本語訳の作成のサポートや受験時の注意点など、相談に応じてもらっています。

## 特色ある取り組み「母語・母文化の重視」

**外国人生徒等による教員対象母語教室**：外国人生徒等が母語を日本語指導担当教員に教える機会を設けています。生徒、教員共に好評で、生徒は自尊感情を高める契機になっています。

**映像から学ぶ文化の多様性**：「総合的な探究の時間」において「映像から学ぶ」講座を実施しており、異文化理解、文化の多様性について取り上げています。昨年はフィリピンの生徒が日本と母国についてポスターセッションの形式で発表しました。

**外部支援者による母語支援**：英語教員や母語を話せるブラジル人県職員、JICA 海外協力隊 OB・OG が、生徒のサポートだけでなく、保護者会の通訳をしたり進学や学習の相談を受けたりしています。

## 学外との連携

**高大連携事業**：

- ・京都外国語大学との連携（2005年～現在）で大学生2名が日本語学習等の支援を行っています。
- ・大阪大学のイノベータープログラム（2020年・半年）により大学院生が支援を行いました。

**滋賀県国際課との連携**：日本語学習の支援のために、ブラジル人職員1名の派遣協力を得ています。

**JICA 関係団体との連携**：海外協力隊滋賀県 OB・OG 会からボランティアが派遣されています。また、2020年には、JICA 関西センターより新型コロナウイルス感染予防のため一時帰国している隊員4名も来校して支援活動に参加しています。

ヒアリング実施日：2021年6月18日